2026年12月期　第３四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年11月13日

上 場 会 社 名　　株式会社kubell　　上場取引所　　東
コ ー ド 番 号　　4448　　URL　https://www.kubell.com/ir/
代　　表　　者　（役職名）　代表取締役兼社長上級執行役員CEO（氏名）山本 正喜
問合せ先責任者　（役職名）　取締役兼上級執行役員CFO　　（氏名）井上 直樹　　(TEL) 050(1791)0683
配当支払開始予定日　　ー
決算補足説明資料作成の有無　　：有
決算説明会開催の有無　　：有　（　機関投資家、アナリスト向け　　）

（百万円未満切捨て）

１．2026年12月期第３四半期の連結業績（2026年１月１日～2026年９月30日）

（１）連結経営成績(累計)

（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第３四半期	8,070	16.2	1,430	53.6	825	201.2	827	228.8	600	ー
2025年12月期第３四半期	6,948	12.4	931	52.3	274	48.6	251	48.4	45	△66.6

（注）包括利益 2026年12月期第３四半期　596百万円（　ー%）　2025年12月期第３四半期　37百万円（　△57.5%）

	１株当たり四半期純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年12月期第３四半期	14.20	14.14
2025年12月期第３四半期	1.08	1.05

（注）EBITDA=営業損益 + 減価償却費及び無形固定資産償却費 + 株式報酬費用

（２）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年12月期第３四半期	6,971	2,661	38.2
2025年12月期	6,682	1,999	29.9

（参考）自己資本 2026年12月期第３四半期　2,661百万円　　2025年12月期　1,999百万円

２．配当の状況

	年間配当金				
	第１四半期末	第２四半期末	第３四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	ー	0.00	ー	0.00	0.00
2026年12月期	ー	0.00	ー		
2026年12月期(予想)				0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：無

３．2026年12月期の連結業績予想（2026年１月１日～2026年12月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		１株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	10,958	15.0	1,704	24.3	942	94.2	942	105.6	654	204.1	15.46

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：有

※　注記事項

（１）当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更　　：　無

（２）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用　　：　無

（３）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

①　会計基準等の改正に伴う会計方針の変更　　：　無

②　①以外の会計方針の変更　　：　無

③　会計上の見積りの変更　　：　無

④　修正再表示　　：　無

（４）発行済株式数（普通株式）

①　期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期３Ｑ	42,646,154株	2025年12月期	42,261,383株
②　期末自己株式数	2026年12月期３Ｑ	241,776株	2025年12月期	208,004株
③　期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期３Ｑ	42,259,457株	2025年12月期３Ｑ	41,828,031株

※　添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー　　：　無

※　業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についての注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実績の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料P.４「１.当四半期決算に関する定性的情報（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 4
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 4
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 5
（１）四半期連結貸借対照表 …… 5
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 6
四半期連結損益計算書 …… 6
第３四半期連結累計期間 …… 6
四半期連結包括利益計算書 …… 7
第３四半期連結累計期間 …… 7
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 8
（継続企業の前提に関する注記） …… 8
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 8
（会計方針の変更） …… 8
（セグメント情報等） …… 9
（キャッシュ・フロー計算書に関する注記） …… 9

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当社グループは「働くをもっと楽しく、創造的に」というミッションのもと、人生の大半を過ごすことになる「働く」という時間において、ただ生活の糧を得るためだけではなく、１人でも多くの人がより楽しく、自由な創造性を存分に発揮できる社会を実現することを目指し、仕事の効率化や創造的な働き方を実現するサービスの開発・提供に取り組んでおります。

このようなミッションのもと、現在の主力サービスであるビジネスチャットツール「Chatwork」は国内中小企業を中心とした顧客企業の労働生産性の向上や働き方の多様性を提供しており、国内利用者数No.１（注１）のサービスとなります。中長期のビジョンとしてこのビジネスチャットの中小企業市場における圧倒的なシェアを背景に、あらゆるビジネスの起点となるビジネス版スーパーアプリとしてプラットフォーム化していく事でさらなる中小企業のDX化に貢献してまいります。

このビジョンを実現するための取り組みとして、当社はBPaaS（Business Process as a Service）を展開しております。BPaaSとは業務プロセスそのものをクラウドサービスとして提供し、企業がクラウド経由で業務アウトソーシング（BPO）を活用できる仕組みです。これにより、企業の業務負担を軽減し、より創造的な業務に集中できる環境を実現します。当社のBPaaSはビジネスチャット「Chatwork」を顧客の業務プロセスに組み込むことで煩雑なコミュニケーションを効率化し、業務を型化してサービスを提供することで、低コストで中小企業の生産性を向上させることを強みとしております。今後も、BPaaSを通じて企業の業務プロセスを最適化し、Chatworkを中心としたプラットフォームの拡大を推進することで、さらなる中小企業のDX化を支援してまいります。

当第３四半期連結累計期間においては、プラットフォームの安全性の向上と、AI活用による生産性および収益性の改善に向けた取り組みを推進いたしました。

まず、第１四半期連結会計期間に公表したフィッシング詐欺への対策として、ビジネスチャット「Chatwork」の新規登録時に電話番号認証を導入いたしました。日本では携帯電話の契約時に法令に基づく本人確認が求められるため、電話番号の登録を必須とすることで、詐欺を目的とした不審なユーザーの登録を排除することが可能となります。本施策をはじめとするセキュリティ対策により、当社が停止した詐欺アカウントの数は大幅に減少しており、なりすましや悪意あるアカウント登録を大きく抑制いたしました。今後も多数のセキュリティ施策を継続的に実施し、プラットフォームとしての信頼性向上に注力してまいります。

次に、全社でのAI活用が浸透し、生産性の改善が進んでおります。2026年1月より全社横断のAI推進プロジェクトを始動し、開発ツールの全社展開等を通じて、社内サーベイにおけるAI活用レベル（当社独自の5段階定義）の平均は1月の2.6から10月には3.2へと大幅に進展いたしました。10月の調査では、回答者の94.2%が成果が出ていると回答しております。さらに、単なるAIの利用にとどまらず業務のAI駆動化を進めたことで、生産性の改善が数値として表れ始めております。開発部門では、2026年上期のアウトプット量が前半期比で1.9倍となりました。人事部門では、部門コストに対する全社売上高の比率が2025年12月期平均に対し2026年7～9月は1.6倍となりました。マーケティング部門では、制作・開発の内製化により外部委託費を年換算で約2,900万円削減いたしました（いずれも社内集計）。これらにより、AIツール費用を上回る人件費・外部委託費の削減を実現しており、今後は1人当たり売上高やG&A比率など全社指標の改善につなげてまいります。

さらに、事業規模の拡大が進んだBPaaS事業は収益性の改善に取り組む段階に入っており、業務の型化・AI化を進めやすい経理領域に注力して改善を進めております。請求書処理などの業務では、AIが請求書を読み取って仕訳や振込データを作成し、オペレーターは確認のみを担う体制とすることで、作業時間を4～8割削減しております。AIを実装し運用中の経理案件11社の合計では、2026年8月から10月の実際の作業時間が受注時の想定に対して58.2%減少しており、作業時間を半分以下とする顕著な改善を実現しております。これらの取り組みにより、経理領域全体の1人員指数（月間160時間の労働を1とする当社の定義）あたり売上高は、2026年9月において期初対比で16.0%上昇いたしました。今後は、型化した業務を他の領域へも展開し、BPaaS事業全体の収益性向上を目指してまいります。

以上の結果、当第３四半期連結累計期間における売上高は8,070,962千円(前年同四半期比16.2%増)、EBITDA（注２）1,430,146千円(前年同四半期比53.6%増)、営業利益825,799千円(前年同四半期比201.2%増)、経常利益827,821千円(前年同四半期比228.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は600,095千円(前年同四半期比1,232.4%増)となりました。

Chatworkアカウント事業のARR（注３）、課金ID数、ARPU推移

	2023年12月期 第４四半期	2024年12月期 第４四半期	2025年12月期 第４四半期	2025年12月期 第３四半期	2026年12月期 第３四半期
ARR（百万円）	5,876	6,873	7,343	7,224	7,646
課金ID数（万）	73.1	78.8	83.8	83.4	85.4
ARPU（円）	672.4	731.7	730.3	725.3	747.1

(注)１．Nielsen NetView Customized Report 2026年7月度調べ月次利用者（MAU:Monthly Active User）調査。 調査対象はChatwork、Microsoft Teams、Slack、LINE WORKSを含む44サービスを株式会社kubellにて選定。

２．EBITDA=営業損益+減価償却費及び無形固定資産償却費+株式報酬費用

３．ChatworkにおけるAnnual Recurring Revenue（年間経常収益）。各四半期のChatwork売上高×4

（２）財政状態に関する説明

(資産)

当第３四半期連結会計期間末における資産は、前連結会計年度末に比べて288,137千円増加し、6,971,092千円となりました。これは主に、のれんが242,751千円増加したことによるものであります。

(負債)

当第３四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末に比べて373,595千円減少し、4,309,430千円となりました。これは主に、未払法人税等が207,226千円減少、１年内返済予定の長期借入金が180,793千円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第３四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末に比べて661,733千円増加し、2,661,661千円となりました。これは主に、資本金が54,953千円増加、資本剰余金が9,885千円増加、利益剰余金が600,095千円増加したことによるものであります。この結果、自己資本比率は38.2%(前連結会計年度末は29.9%)となりました。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの中期経営計画では2026年12月期までに中小企業No.1 BPaaSカンパニーのポジションを確立し、長期的には中小企業市場における圧倒的なシェアを背景に、あらゆるビジネスの起点となるビジネス版スーパーアプリとしてプラットフォーム化していくことを目標としております。2024年12月期から2026年12月期では、中小企業No.1 BPaaSカンパニーの目標に向けてグループ全体の成長を加速させると共に、利益を生み出せる体制の構築を進めてまいりました。

中期目標としては2024年12月期から2026年12月期までの連結売上高CAGR30%以上、2026年12月期において売上高150億円、EBITDAマージン10～15%を掲げてまいりました。

上記方針に基づき、2026年12月期においてはビジネスチャットツール「Chatwork」の普及とBPaaSへの投資と利益を生み出す体制の構築に取り組むことで、引き続き高い成長率の維持と収益性の改善を同時に進めております。

今回、通期の業績見通しの確度が高まったことを受け、通期業績予想を金額レンジでの開示から単一金額での開示に修正いたしました。通期の業績見通しは以下の通りでございます。

(単位:百万円)

	2025年12月期 実績	2026年12月期 予想	前年同期比
売上高	9,529	10,958	+15.0%
売上総利益	6,603	7,707	+16.7%
EBITDA	1,371	1,704	+24.3%
営業利益	485	942	+94.2%
経常利益	458	942	+105.6%
親会社株主に帰属する当期純利益	215	654	+204.1%

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第３四半期連結会計期間 (2026年９月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,455,235	3,182,753
売掛金	456,925	417,492
前払費用	878,146	1,011,710
その他	40,540	39,148
貸倒引当金	△957	△2,384
流動資産合計	4,829,891	4,648,720
固定資産		
有形固定資産	39,317	48,966
無形固定資産		
ソフトウエア	753,082	921,412
のれん	89,458	332,210
その他	249,280	312,149
無形固定資産合計	1,091,821	1,565,771
投資その他の資産	721,924	707,633
固定資産合計	1,853,063	2,322,371
資産合計	6,682,954	6,971,092
負債の部		
流動負債		
未払金	343,752	320,149
未払費用	252,546	189,962
未払法人税等	251,866	44,640
契約負債	2,225,510	2,323,259
賞与引当金	125,692	125,035
１年内返済予定の長期借入金	390,340	209,547
株式報酬引当金	―	391,666
その他	230,895	264,862
流動負債合計	3,820,604	3,869,122
固定負債		
長期借入金	541,588	440,308
株式報酬引当金	320,833	―
固定負債合計	862,421	440,308
負債合計	4,683,025	4,309,430
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,008,265	3,063,219
資本剰余金	2,994,125	3,004,011
利益剰余金	△4,017,465	△3,417,369
自己株式	△115	△107
株主資本合計	1,984,810	2,649,753
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,513	2,513
繰延ヘッジ損益	12,605	9,395
その他の包括利益累計額合計	15,118	11,908
純資産合計	1,999,928	2,661,661
負債純資産合計	6,682,954	6,971,092

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
売上高	6,948,051	8,070,962
売上原価	2,190,308	2,318,217
売上総利益	4,757,743	5,752,745
販売費及び一般管理費	4,483,579	4,926,946
営業利益	274,164	825,799
営業外収益		
受取利息	4,114	7,958
ポイント収入額	4,417	4,271
雑収入	382	3,087
営業外収益合計	8,914	15,317
営業外費用		
支払利息	15,981	11,063
投資有価証券売却損	6,536	－
為替差損	5,384	708
その他	3,422	1,523
営業外費用合計	31,324	13,295
経常利益	251,754	827,821
特別損失		
投資有価証券評価損	－	19,326
特別損失合計	－	19,326
税金等調整前四半期純利益	251,754	808,495
法人税、住民税及び事業税	197,900	171,231
法人税等調整額	8,815	37,167
法人税等合計	206,715	208,399
四半期純利益	45,038	600,095
親会社株主に帰属する四半期純利益	45,038	600,095

四半期連結包括利益計算書

第３四半期連結累計期間

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自 2025年１月１日 至 2025年９月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自 2026年１月１日 至 2026年９月30日）
四半期純利益	45,038	600,095
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,134	－
繰延ヘッジ損益	△11,374	△3,209
その他の包括利益合計	△7,240	△3,209
四半期包括利益	37,797	596,886
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	37,797	596,886

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（セグメント情報等）

【セグメント情報】

Ⅰ．前第３四半期連結累計期間(自　2025年１月１日　至　2025年９月30日)

当社グループは、「プラットフォーム事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

Ⅱ．当第３四半期連結累計期間(自　2026年１月１日　至　2026年９月30日)

当社グループは、「プラットフォーム事業」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

（キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第３四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第３四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第３四半期連結累計期間 (自　2025年１月１日 至　2025年９月30日)	当第３四半期連結累計期間 (自　2026年１月１日 至　2026年９月30日)
減価償却費	403,259千円	352,142千円
のれんの償却額	3,166千円	28,096千円